



『経営者の真の生き様を求めて』
利己中心の生活を送るほど
人生は長くはない

税理士法人TACT高井法博会計事務所
TACTグループ関連十三社代表
税理士 高井法博

一度きりしかない人生、その人生をどう生きるのか。創業四十二年、ビジネス人生五十四年を迎え、人生の目的を改めて問うことが多々ある。この頃であるが、究極のところ『自己の完成』に少しでも近づけることに尽きると考える。求め続ける『完成すべき自己』とは何か？ そのあるべき姿は……。

しかし、結局「人間は誰もが最後まで不完全で自信がないまま生涯を終えるのが自然なことなのである」と思う。
一、どうなりたいか、どうしたいかを明確にする
「夢や志」そのあるべき姿を具体的にし、その目標を達成するための方策を達成期日も決めた「経営

に置くことができるような出逢いを創出してくれる。つまりステータスの次元が変わっていくのである。『経営計画書』の作成は、「跳躍力UP(異次元の成長)のために重要なものであるのは論を俟たない。二、『成功する経営者』と『失敗する経営者』

創業して四十二年。多くの企業の興亡・栄枯盛衰を見てきた。経営計画書を作り、業績をあげ、「あんなに良い企業が……」、勉強もし、「あんなに立派だった経営者が……」。複雑な思いでその蹉跌を見送ってきた。
多くの会社に関与させていた中で、業績が良く成長する企業には多くのセオリーがあり、それらは極めて論理的科学的なものであった。経営の原理原則をしっかりと勉強し、それをシステム化して会社の中にしっかりと落とし込めるかどうか、企業の盛衰に大きく影響する。このようなことから、私は「経営はシステムである」と確信した。
若い頃、大阪の著名な経営者数

人で開催される私的な忘年会に呼んでいただいたことがある。そこで有名な経営ジャーナリストにお逢いした。その席で私は「失敗する経営者」の要因について尋ねた。そのジャーナリストは、まじまじと私の顔を眺め、しばしの沈黙の後『その質問はとても良い質問で、心して自らの肝に銘じておく必要がある。』と、次の二点を挙げられた。第一は『己自身を知れ!!』ということと、第二は『慢心だ!!』と教えていただいた。多くの経営者は、創業時は謙虚に誠実に、昼夜を惜しんで必死に努力をする。その甲斐あって会社が成長すると、皆からチャホヤされ自分が偉いと錯覚をしてしまうのである。経営者の心に驕りと油断が生じ、名声に酔い、財に溺れ、言葉尻や態度が横柄になる。傲慢さが出てくる。『己を忘れ慢心してしまう』のである。『己自身を知れ』ということだ。

経営者は『会社成長のセオリー』と共に、経営者自身の『考え方や人格を高める』ための勉強をし続けなければならない。そして、意

識して謙虚に誠実に、真面目に日々努力をする「クセ」を真に身につけなければならない。このような努力や勉強は、坂道で車を押すのと同じで継続して続けねばならない。油断するとすぐ元に戻ってしまう。『経営はトップの器によって決まる。』

こう考える時、本来『良い会社』とか『悪い会社』というものはなく、あるのは『良い社長』と『悪い社長』だけだということを、つくづく感じる。

三、経営者の判断・利は義の和なり(易経)

佐藤一斎の言志後録に「曰く君子亦利害を説く。利害は義理にもとづく。小人亦義理を説く。義理は利害による。同じくいう。真の功名は道徳便ち是なり。真の利害は義理便ち是なり。」とある。

君子(人格者、立派な教養のある人)は、どうかすると利害などというものは説かないようにと誤解する者がある。人間に利害はつきもので、君子も利害を説く。然し君子の説く利害は義理が根本で

ある。義とは実践の法則であり、理とはその理由である。君子のいう本当の功名手柄は、人間としていかにあるべきかの道徳から出る。つまり本当の利益というものは、義理にかなうものでなければならぬということである。

経営者は日々判断を迫られる。得か損か、好きか嫌い、楽か辛いか、正義か裏切りか。それは「人間の判断が会社の盛衰を決める。」「人は行動の選択をした時、その結果も決める。」「会社の現在の姿は、今までの社長の判断と行動の集積の結果であることは論を俟たない。この際の判断基準が会社の成長・経営者の成長に極めて重要になる。基本は「人として正しい」ことが、『判断基準』としてしっかりと確立されているかどうかである。人の心は移ろい易いものである。常に修行と勉強を続け人格を高めると共に、このレベルを高く継続し続ける必要がある。いかなれば「会社成長のセオリー」は、人間的成長のセオリー」でもある。

四、利己中心の生活を送るほど、人生は長くはない。
心酔する人生の師の一人、飯塚毅先生からこの言葉を教えていただいた。人の一生は、大宇宙の生命からみればほんの一瞬、表面的な自我(エゴ)に引きずられ利益追求にとらわれて、一生を送るのは大間違い。この短く尊い一生は利己中心の生活をぐずぐず送ってよいほど長くはない。
人生の最終章に差しかけた今、どうしてもやらねばならないことは別にして、好きでないことはできるだけ関わらないようにしたい。一分でも一時間でも、一生懸命昼夜を問わず私を助けてくれている社員や、当社を支えて御支援をいただいたお客様のために、また感動できること、自分の人生を真に捧げる活動や仕事、真に心から私を必要としてもらえること、尊敬をもって見られること、好きなことに時間を使いたいと思う。醜いと感じたりすることに人を使わず、素直に正直に、しなやかに生きていきたいと思う今日この頃である。

島田 合同事務所

司法書士 土地家屋調査士
(簡裁訴訟代理認定)

島田 遵

島田 憲治

〒502-0916

岐阜市西中島一丁目4番6号

TEL (058) 232-0011 FAX (058) 295-3805

会社の登記

相続手続

不動産の名義変更

土地建物の測量登記

成年後見

その他、お困りごとがございましたら、お気軽にお電話ください。